TS孕み姫

～元勇者さん♂がオークの群れのお姫様♀になるお話～

原作：舞鶴やちよ　作画：れいとうみかん
企画：あむぁいおかし製作所

中央山脈・山中――
何だコレ…どうなってんだよ…ッ
どうして…オレの体が女に…!?
どうもこうも何も、ねぇ…
あぁ…
TS孕み姫!
～元勇者さん♂がオークの群れのお姫様♀になるお話～
原作：舞鶴やちよ　作画：れいとうみかん
企画：あむぁいおかし製作所

私達、パーティ抜けまーす

んなっ…!?

しっかし、ホントにラッキーねー。

性転換の術式にあっさり引っかかってくれるなんて

お前への好意を逆手に取った作戦勝ちだろう…

…とんだ悪女だな

無駄口叩いてないで、さっさとヤるわよ？

装備と有り金も全部頂いていくの

待ってくれ…！

ス…

ビキ

ビキ

二人とも…どうしてこんなことを――
オレ達、同じ道をゆく仲間だったハズじゃ…
ダメだ…っ！胸がジャマで…力も思うように、入らな…っ!?
…悪く思わんでくれよ
アナタとの旅は楽しかったけど、所詮私達は陰の住人

光の道をゆく
アナタと
居るとね――
思い知らされるの
所詮、人は
変われない…
どこまで
行っても、日陰者は
日陰者なんだ
ってね
ギャ
ガ

…まずいな。ここら一帯はオークどもの巣窟だ
長居は無用ね。さっさと退散しましょ
…それが狙いでここまで連れ込んだのだけど
命だけは、取らないでおくわ。
アナタの言う天命とやらを、信じてみることね
さよなら。愛しの勇者さん――

ま、待て…

ガ…

ガ…

動クナ。

テイコウ、自殺ト同ジ。

ズズ…

お前たちのこと…信じてたのに――

このまま、こんなところで…

見放される…なん…て…

オマエ…何故アンナ所ニ居タ。
…さぁな？知ってどうするんだ
生意気！コノメスガキ！
人間、俺タチノ仲間、大勢殺シテキタ！
殺セ！
犯セ！
ブッ殺セ！
あぁ…いっそ、殺してくれた方がマシかもな…
お前たちがオレを嬲るのも勝手だ。痛みには慣れてる

信じていた仲間に裏切られ、ひ弱な体にされた挙句――

こっぴどく棄てられた、哀れな勇者のなれの果てだ。

安らかに死ねるなんて、思っちゃいないさ。

殺セ！

犯セ！

ブッ殺セ！

犯セ！

殺セ

――待テ。

――今、勇者、ト言ったナ？

族長（ゾクチョウ）！

勇者、トヤラ…
オ前ガ、真に天命ヲ受けル者ならバ――
オ前ハ我らノ、救世主トなるヤモ知レン。
ザ…
ザ…
オ前――
我ガ一族の「孕み姫」、トナレ。

……
「孕み姫」、か。

長老の話では、
こうだ――

オークは元来、
妊娠期間が人間より
ずっと短く
多産でもあるが…

その分、女の数が
きわめて
少ないらしい。

おまけに、人間との争いで大きく数を減らしてしまったため、

方々の村から人間の女を攫って仔を孕ませ、凌いでいたそうだ。

各地で断絶の危機に瀕する一族を、少しでも永らえさせるために――

…事実、我ガ一族ニハ、モウ女ガ居ナイ。

女ノ子供ガ生マレなケレバ、隣山トノ里子交換もデキナイ。

奴らの中にある憎しみの原因はそれか…

どうして種族を挙げて人間を襲い続けるのかも、何となくわかった。

オークも人間も、元は古代エルフからの派生種だ。

混血したときは、より魔性の強い、オークの血が優性となる。

だが、人間の女を攫ってきたとて、1人産ませられれば良い方…

大抵は胎児の急な成長に耐えられず、母体ともども衰弱死するのが普通だ。

シカシ、オ前ナラ…

天命を授カリシ、勇者ノ母体デアレバ…

我らノ為ニ出産を繰り返ス「孕み姫」とナレルヤもシレン。
「孕み姫」…？
名誉アル役割ダ。
代々、一族デ最も強い女ノミガ、選バレてキタ。
…ココ数年ハ、空白トナッテイタガナ。
「孕み姫」――ナルなラ、身の安全も保障スル。
もしも仔を孕んで、天命が働かなければ…？

ソノ時ハ、お前ハ死ヌ。

オ前ノ望ミ通リニ、ナ。

信じていた仲間に裏切られ、このまま死をも覚悟していたが…

こんな体となり果てた勇者にしか、できないことがある…か。

連中は結果的に、オレを殺さなかった。

少なくとも食事をくれたし、腹を割って話もしてくれた。

この身ひとつ、捧げるだけで救える何かがあるのなら——

——やってやるさ
孕み姫でも何でも…な

戯式を始メル。
はい…
カッ
ス…
ポタ
ポタ…
苦…っ!? 何だコレ…!
ゲホ
ゲホ
宣誓、始メル。
っ…は…はい

ワタシは――
すうっ
私は、一族の者として…
名誉ある、「孕み姫」として…
生涯かけて、その役割を果たし続けること――
今、ここに誓います。

――何だったんだ…… あの液体……
さっきから、頭がフワフワしてきて……
胸が、お腹の奥が……
急に熱く、燃えたぎるような感覚……
何だ、この感じ……ッ。
オ前、初物(ハツモノ)……ダッたナ？
体もジンジンする……
少シ、慣ラシテやレ。

今の――
オレの声!?
こんな、
女みたいな――

ガバッ

あ…そっか…
オレの体、
男じゃなくなって
たんだ――

――今更、だよな。

この胸――

この割れ目――

ここに来てから、まるで意識する余裕もなかった、オレの中の[女]の部分。

一度意識した途端――疼きがどんどん、膨れ上がってくる…ッ。

撫でられる度に、身も心もヒリヒリと痺れて――

内側からジワジワ溶かされていくみたいだ――

これが…女の快感、ってヤツなのか…？

ゲチュ

ゲチュ♡

ゲチュ♡

びく

びくっ

びくっ

びくん

ぶじゅ

ぶじゅ

ぶじゅ

ゴッ…

ゴッ

ゴッ

ゴッ

コレが…オークの…！

はー♡

大きさも、何もかも…人間のソレと、全然違う…！

はー…

コレが今から、オレの中に…

ぞくぞくぞく

カラダが、いうことを聞かないっ――♡

ドンッ

ひゃっ――

一人デ盛ルのハ良イガ…

戯式ヲ忘レルナ。

オ前ハ、俺達ノ何ダ？

は、はい…っ♡
わ、私は皆さんの――
――孕み姫…です♡
しぼ♡
――そうだ。思い出せ。
今のオレの役割は――

「孕み」姫…！

ぐぽ

ぐぽ

コイツらの精を受け止め、仔を孕む――

んんっ…

…は…っ

ただそのコト以外、何も考えるなっ――

じゅぷ

ぢゅぷ

ぢゅぷ

ぢ

はー…♡
は…っ♡
んん…っ♡
おぉ…っ♡
これ、ヤバっ——

突きされる度に、お腹の奥が疼いて…
キュンキュンするの、止まらない…ッ♡
んぎぃ…
「初めて」のカラダで、一方的に激しくされて——
身も心も、ぐちゃぐちゃにされて…っ♡
もうすぐアレに孕まされるんだ、
って、
そう思うだけで…

体の奥が、もっと
もっと…っ、て
求めだしてきてるの、

ゾクッ

自分でも
わかる…っ♡

奥まで乱暴にされて、
どうしようもないぐらい、
狂わされてるところ、

ぐぢゅっ♡ぐぢゅっ♡

ぎゅーっ♡

ぎちっ

キリッ

ぐぢゅっ♡ぐぢゅっ♡

おっ♡おっ…♡

おっ♡おっ♡ぎゅーっ♡

コイツら全員に
見られてるのに…

見られてる
のに…ッ♡

ずっとずっと気持ちいいの溢れて…
もう、止まらないっ♡
あ、そっか——これが今の、オレの役割——
これが今の、オレの使命——
気持ちよくって——気持ちよ過ぎて♡
コイツらの孕み種、欲しくてほしくて、堪らなくなってる…っ♡

これが――
「ワタシ」の――♡

――おめでとう、
新たなる勇者よ。

はい
私は、天命に
選ばれし者として、
名誉ある勇者の
称号をつかまつり…

その命を賭して、
人々の願いを叶え、
救いをもたらすことを

――今ここに
誓います。

まちゃ
まーまー
まちゃまちゃ
まー
孕みましょ♡
産みましょ♡
ぎゅぅ
ぎゅぅ
ぎゅぅ

ぼーっ…
ぼーっ…
何ヲ呆けテイル？
お前ノ役目ハ、コレカラダ。
一番強イ子種を孕ムマデ、全員ノ相手をスル。
ソレガ、「孕み姫」ノ役目。
ぼーっ
ぼーっ
ぼーっ
ぶるん
ぶるん
ぶるん

どくどく
どくどく
ごて…♡
いくぅぅ
…はい♡
みなしゃんの子種、
私の中に…
もっともっと——
いっぱい
くらしゃい♡

この日――。
一人の勇者が、
オークの
「孕み姫」となった。

来る日も、来る日も、
彼らの精を――
貪欲に、
その子宮に
受け止め続け――

仔を孕み、
そして、
産み落とす。

産んだ仔を育て
ながら、また交わり、
そして孕む。
そんな月日の
繰り返し――

当初、人間への積年のわだかまりから
彼女を孕み袋同然に扱っていたオーク達も――
か弱いその身で、一心にオークと子供達のために尽くすその姿に――
次第に本心から打ち解け――
やがて、仲間として認めるようになっていったという。

時は流れ――

えー、今回の品は…っと。竜骨10、薬草酒30、竜茸酒22…

ドサッ

それから、コカトリスの目玉を一つ、っと…

間違いない。これで全部だ。

アリガトゴザマス。420G、デス。

ペコ

ギュッ

おう。まいどー

…まさか、人間とオークの間で、交易ができちまう時代が来るなんてなぁ

これも、ヤツらの「姫様」ってやつのお陰かもな

ペコ

ひめさま？

おうよ
なんでも噂では、とんでもなくべっぴんな人間の女だっていうじゃないか
何？人間の女が？
そうだ
その姫様の噂と、各地のオークが人を襲わなくなった時期…どうも同じくらいだって言うじゃないか
ガラガラ
へー
大した女だぜ。
いったい何者なんだろうな、ソイツ
なんだか、歴代の勇者様みてぇな話だなぁ
当代は未だ行方知れずだってのにより
偉業をなしたオークの姫君、かぁ

是非とも一目、会ってみたいもんだなぁ――
おしまい